第15講

医学・自然科学系(1)

インフォームド・コンセント

チャプター1

資料読解

生徒メモ欄

1　インフォームド・コンセント(informed consent)という言葉は，がん告知や脳死，薬害等の問題の議論が盛んに行なわれつつあることもあって聞き慣れたものになってきた。

2　「インフォームド・コンセント」という言葉には，「説明と同意」，「説明，納得，同意」等さまざまな日本語があてられているが，医療従事者が患者や被験者に対して十分な説明を行ない，それに患者あるいは被験者が同意を明確に示して初めて医療従事者は患者に対し治療や実験を施すことができるという考え方を指す。

[中略]

3　倫理学の視点から見た場合，なぜ患者・被験者のインフォームド・コンセントが必要なのだろうか。これに対する一番簡単な答えは，次のようなものだろう。実験や治療には，身体を切り裂いたり薬物を投与したりすることが含まれており，その行為だけを取り出せばまぎれもない「暴行」であり，本来は法律にも道徳にも反する行為だ。医療従事者が罰せられないのは，そうされることに患者・被験者当人があらかじめ同意していることにより違法ではないからだ，というものである。また，私たちは自分の身体に関する自己決定の権利をもっているのだ，という言い方もできる。私たちは自分の身体は自分のものであると考えている。自分のものであれば，基本的には自分の好きなようにする権利があるはずだ。また，医療の現場で医療従事者が手に入れた私の身体に関する情報は，私がそうすることを同意したからこそ医療従事者が知ることができたのだから，彼らは

それを私に伝える責務があるはずだ。

④　しかし，なぜ私たちはそういう「権利」をもっていると言えるのだろうか。このような文脈でよく引き合いに出されるのがドイツの哲学者カントの見解を現代的にアレンジしたものである。例えばビーチャム[1)]の説明を見てみよう。彼によれば，すべてのひとには価値があり，自分の運命を定め，それに従う能力，すなわち「自律」の能力がある。ひとの自律を侵害することは，そのひとを他の目的のために使うということであり，つまりは，そのひとを単なる手段として用いることである。これは道徳的には許されることではない。だから，各人の自律は，尊重される「権利」とされるべきなのだ。これが「自律の尊重」と呼ばれる考え方と，そこから導き出された「自己決定権」である。このような説明は必ずしもクリアで説得力のあるものではないが，私たちの直観では確かに重要な意義をもっているように思われる。端的に言って，私たちは自分のことは自分で決めたいし，他のひとびとにはそれを尊重してほしい。

⑤　しかし，この単純な考え方はすぐに他のさまざまな考え方や配慮と衝突することになる。よく引き合いに出される（そして私たちの生活で実際に生じる）次のような例を考えてみよう。

⑥　［例］　患者は悪性のがんに冒されており，余命はそう長くないと予想されている。ここで患者に彼ががんであることを告げれば，患者に心理的な動揺を引き起こして，生きつづけようとする意欲を奪ってしまうかもしれない。それが結果的に，患者の生命をさらに短くすることになると予測される。それでも患者が望めば，彼の状態について告げるべきだろうか。

⑦　「原則的には患者が自己決定する権利をもっている」と認めても，このような例については，「当然，病状について告げるべきだ」と言いきることにためらいを感じるひとも多いだろう。その根本にあるのは，上で述べた「自己決定権」や「自律の尊重の原則」と対立する可能性があるもうひとつの強力な原則である。それは，医療従事者は患者の生命や幸福や利益を増進させるべきであり，これらを損なう行動はすべきではないという「善行の原則」と呼ばれる考え方である。

⑧　確かに通常は，自己決定は重要であり尊重されるべきだろうが，その当人が幸福になるためには，必ずしも自己決定

生徒メモ欄

生徒メモ欄

が優先されるべきであるとは言えない場合があるのではないだろうか。私たちは何が自分の利益になるかをつねにはっきりと認識しているわけではなく，また，自分の利益になることを必ず選択するわけでもないように思われる。もし本人の幸福や利益のためには，本人の意思に反する強制を行なってもかまわないと考えるなら，このような考え方は「パターナリズム」と呼ばれる。

9　このような考え方に対して，なお「自律は尊重されるべきだ」と考えるひとにとっては，二通りの答え方が可能であろう。ひとつは，あくまで本人の自己決定が重要であり，「幸福」や「利益」は二次的な重要性しかもたないと主張しつづけることである。しかし，おそらくこの返答はうまくいかないだろう。というのは，この善行の原則も，自律の原則とならんで，私たちの道徳的直観のなかで非常に重要な位置を占めているために，単に自己決定が優先すると主張するだけでは問題を解決したことにはならないからである。むしろ，より有力な答え方は，自己決定を尊重することこそ患者の幸福につながるのだ，と主張することだろう。

10　健康はほとんど誰もが望む価値だろうが，ほかにもひとが望むことは多様でありうる。ひとによっては少しぐらい長く生存しようとするよりは，より活動的に生きることを望むかもしれない。また，少々のリスクを冒しても，美容を損ねないことを望むこともあるかもしれない。このような意味で患者の「幸福」や「利益」は多様でありうる。一般に，あるひとについてもっとも多くの知識をもっているのはそのひと自身であり，またそのひとの利益や幸福に最大の関心を払っているのはそのひと自身だと言うことができる。したがって，基本的には患者自身が，何が自分の利益になるのかをもっともよく知っているし，もっともよく判断できると言うことができるだろう。私たちの幸福や利益は，個人のより大きな視野での価値観のなかでこそ本来の意味での幸福や利益と言えるのである。したがって一般的には，本人に関連する十分な情報を与えた上での自己決定を尊重することが望ましいと言うことができる。

11　インフォームド・コンセントの必要性に関してもうひとつ視野に入れておかなければならないのは，社会的な利益に関するものである。アメリカでインフォームド・コンセントが一般化したのは，医師の「訴訟逃れ」のためなのだと皮肉な調子で語られることがあるが，インフォームド・コンセントのこのような側面を倫理的に過小評価する必要はない。

不十分な情報しか与えられなかったり，望まぬ治療を施された患者が医師に対して不信感を抱き，場合によっては訴訟に踏み切ることは自然な成り行きである。このような医療不信や訴訟の増加は大きな社会的コストとなりうる。患者の自己決定が尊重されるということが保証されるならば，それは医師と患者の信頼関係の向上に役立ち，よりよい医療措置へつながるだろう。

［中略］

⑫　もしインフォームド・コンセントが，以上のように自律の尊重や善行の原則から導き出される倫理的な要求なのであれば，インフォームド・コンセントが単に「何が起こっても不服としない」というような手術の同意書にサインするようなことではないことがわかるだろう。それでは，実際のところ，何が伝えられ同意されねばならないのだろうか。

⑬　まず前提条件として，患者や被験者の理解能力と決定能力が必要とされることに注意すべきだろう。自分に対して行なわれる実験がどのような性質のものであるか，あるいは自分の現在の病状がどのようなものであるかを理解することができなかったり，あるいは，どの選択肢がもっとも自分の（価値観に照らした場合に）利益にかなうものであるかを決めることができないとすれば，情報を伝えることも，医師の治療方針・実験方針に同意するかどうかを尋ねることも，意味がなくなってしまう。しかしこの場合にも，当人と社会の利益を考慮に入れるならば，当人についてもっともよく知っており，またもっとも関心を抱いているひとが当人の代理として判断することになるだろう。伝えられるべき情報としては，患者の病状，可能な治療法の選択肢とその予後，手術や医薬品の危険性や副作用等が伝えられねばならない。また，問題は当人の生活の質であるとすれば，生活がどのように変化するのか，どのような福祉サービスが利用可能なのかといった情報も必要とされるはずである。さらにはそれが「伝えられた」だけではなく，当人がそれらの情報を十分に理解することが必要であろう。したがって，医師はいたずらに専門用語を用いたりせず，患者に理解できるような仕方で情報を伝えねばならない。判断の材料として，医師自身，どの治療法がもっとも望ましいと考えているかも伝えるべきであろう。

⑭　これらの情報に基づいて，患者は自分がもっとも望ましいと思われる選択肢を取ることに同意し，そしてそれを明文化しておくことになるであろう。臨床実験についても同

生徒メモ欄

生徒メモ欄

様のことが言える。

出典：江口 聡 「インフォームド・コンセント：概念の説明」（「生命倫理学を学ぶ人のために」所収） 世界思想社，1998年，30～38ページ，抜粋・一部改変

注釈

1） ビーチャム：アメリカの哲学者。チルドレスと「生命医学倫理」を著し，医療倫理学の体系的理論を構築した。

（琉球大学 医学部 保健学科 2021）

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

本文中の[例]について，あなたが医療従事者だとしてこの患者にどの様に接したら良いのかあなたの考えを300字以上，400字以内で述べなさい。

解答案をつくってみよう

100

200

300

400

（　　　　字）

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

観点	項目	評価
設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

答案例①

　生きていく上で何が重要で、何を優先するかは人により異なり、それを他人が熟知するのは不可能である。一般にその人の利益や幸福に最大の関心を払っているのはその人自身といえると述べられているが、私も同様に考える。よって、患者の希望をくみ現状を述べる選択をすると思う。ただ患者にとってその選択が後に最適解であったと納得できるように、告知前に診療時の様子や可能であれば家族からの聞き取り等、当人の心身の状態を把握しておく必要があると考える。また、患者の望む医療を提供することは重要であるが、患者の望む結果に近づけられるよう、告知後の患者の心身に起こるとされる状況を前もって予想し、それに合わせた対処を行うことができるようにシミュレーションしておくことも必要になると思う。

(330字)

生徒メモ欄

教員記入欄

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見(主張)	設問と意見との関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

答案例②

私が医療従事者だったら、患者が望むのであれば、病気について告知すると思う。いくら強じんな心を持っていたとしても、余命を告げられれば落ち込むことや、自暴自棄になることも考えられる。しかし、「患者が望む」ということは、患者自身もそれ相応の覚悟ができているものと考える。

しかし、自分の病状や治療方針について、ただ「伝えられた」だけではなく、十分に理解することが必要と述べているように、患者が生きるためにどのような治療をしていくのか、それにはどのようなリスクがあるのかなどを、分かりやすい言葉で示す必要があるのは当然のことだと考える。理解できないままでは、告知も治療も意味のないものになってしまうからだ。

医療従事者が提案するいくつかの方法について、患者自身が理解した上で自律を尊重することが望ましいと考える。

(373字)

生徒メモ欄

教員記入欄

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄